肱川流域治水対策特別委員会

委員長 後藤 武薫

◆陳情第3号 激特事業計画の再整備及び山鳥坂ダム建設、野村ダム改良工事の中止を求める陳情

趣旨 「激特事業計画を4,700m³/Sでの河川配分流量により再整備を求めること」、また、「建設予定地が変更となった山鳥坂ダム建設工事及び野村ダム改良工事は、平成15年河川整備基本方針には位置付けられておらず、令和5年河川整備基本方針で後付けで位置付けられたものであり、河川法第16条により違法であるため、それぞれのダム工事に対して中止を求めること」の2点を国に要請することを要望されているもの。

◆陳情第4号 肱川水系河川整備について、河川配分流量4,700m³/Sの河川整備及び河川疎通能力を踏まえた河川工事かどうか再検証することを求める陳情

趣旨 「4,700m³/Sでの河川配分流量による河川整備を求めること」、また、「大洲城直下の床止堰、肱川橋直下のナゲテラス、対岸の緑地公園の盛り土、久米川合流点の三角形の高水敷の高台化、阿蔵から玉川区間の特設堤の建設など、肱川橋から下流の流下阻害物と思われる工作物の設計は、治水合理性に反する工事設計であるため、河川の疎通能力を踏まえた河川工事であるか再検証すること」の2件を要望されているもの。

意見 これらの陳情において、陳情者は更なる河川整備を求めていると感じている。そのことについては理解できるが、全国各地で災害が多発する状況で、大洲市のみで河川整備の予算を集中させることは困難であると考えます。今回実施された激特事業において平成30年7月豪雨災害の洪水を越水させずに流下させることが可能となり、今後も河床掘削や樹木伐採を進める計画であるなど、さらなる治水安全度の向上を目指すこととなっているため、これらの陳情は不採択としたい。

鹿野川ダムのトンネル洪水吐工事の完成により、治水安全度が向上していると感じている。野村ダムの改良工事も行われ、操作を連動させることにより、更なる肱川の治水安全度の向上が図られると考えている。また、ダム整備の手続き上において、河川法

に関する違法性はないと考えているので、これらの陳情には同意できない。

肱川のナゲテラスなどの構造物に関しては、確かに河川の流れを阻害する可能性はある。陳情の内容について賛同できる部分はあるが、完成後も河道掘削、樹木伐採等をさらに推進することにより、安心した肱川の治水を進めてもらいたいと考えており、今回の陳情については不採択としたい。

平成30年豪雨災害の被害の現状を見て、国や県が河川整備等を進めていると考えている。全てにおいて完璧な河川整備を行うとなれば、更なる予算や用地も必要となってくる。これらのことから、国・県・市が一体となって、少しでも災害が減るよう努力すべきであると考えており、これらの陳情は不採択としたい。

審査結果 不採択(陳情第3号及び陳情第4号)

議 会 日 誌

《12月》

19日 一部事務組合議会定例会(3議会)

《1月》

6日 年賀交歓会(松山市)

11日 大洲市合併20周年記念式典

12日 大洲市きらめき大賞表彰式

//日 成人式~二十歳のつどい~

15~17日

個人行政視察

(尾道市、三原市、竹原市、呉市)

20日 佐賀県伊万里市議会行政視察

21~23日

個人行政視察(東京都)

28日 議会運営委員会

30日 南予市議会議長会定期総会

《2月》

7日 全国高速自動車道市議会協議会定期総会(東京都)

18日 議会運営委員会

21日 大洲市人権・同和教育研究大会

編集後記

この度の全国各地の林野火災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

防災行政無線でお知らせさせていただいているとおり、乾燥した日や風が吹いているときは屋外での火の使用を控え、やむを得ず火を使用する場合は必ず消火の準備を行い、その場を離れず完全に消火していただくようお願いいたします。